2019 年

# １１月の普及活動状況

**ダイジェスト版**

**～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課（農業革新支援センター）の取組～**

**岐阜県農政部農業経営課**

# ２０１９年１１月の普及活動状況ダイジェスト版

## 多様な担い手づくり

**岐阜農林■スマート農業　ロボットトラクターで小麦の作業を実施**

【ロボットと有人トラクターの協調作業で効率アップ】

瑞穂市にある(農)巣南営農組合では、国のスマート農業実証プロジェクトにて、水稲と小麦を組み合わせた３年５作体系による超低コスト栽培に取り組んでいる。

11 月 6 日、組合オペレーターとＪＡぎふ、農業普及課にて小麦播種計画と併せ、ロボットトラクターによる作業工程を検討した。

結果、これまで人手不足のため出来ていなかった播種前耕起をロボットと有人トラクターの協調作業で効率的に行い、小麦の発芽を促すこととした。今年は約 30ha の小麦を作付け予定で、病害虫防除や収穫作業においても、スマート農業機械を活用する計画である。

農業普及課では、小麦の生育調査や栽培指導と並行して、麦作におけるスマート農業技術の実証に取り組む。

**中濃農林■美濃市採種組合　法人設立に向けて検討進む**

【意見を出し合う発起人】

美濃市採種組合は、高齢化により組合員数が減少していることから、組織維持のため法人化に向けた準備を進めている。

農業普及課では、ＪＡめぐみの、ぎふアグリチャレンジ支援センター、農業経営課と連携し、検討会での助言を行うなど当該組合の法人化をサポートしている。10 月 24 日、31 日、11 月 13 日の３回にわたって発起人会が開催され、定款や事業目論見書などを作成しながら、具体的な法人の組織作りについて検討が行われた。発起人会では活発に意見が出され、法人の形が徐々に出来上がりつつある。

農業普及課では、今後も各関係機関と連携し、法人化への支援を行っていく。

**可茂農林■多様な担い手づくり　農事組合法人みわほたる設立総会の開催**

【設立総会】

美濃加茂市北部に位置する川浦地区（上川浦・中川浦）では、将来にわたり農地を守っていくため、集落全体で農地を守る「集落ぐるみ型の集落営農組織」の設立を目指してきた。３年前から住民による準備組織を立ち上げ、可茂農林事務所はじめ関係機関は、積極的にその活動の支援を行ってきた。

今般、設立に向けて準備が整ったため、11 月 4 日に美濃加茂市三和交流センターで設立総会が開催された。

集落営農組織は設立がゴールではなく、その後の持続的な運営が重要となることから、今後も総合的に支援していく。

**東濃農林■東濃就農応援隊　新規就農者のほ場を視察**

【新規就農者のほ場視察】

11 月８日に東濃就農応援隊の研修会が開催され、就農応援隊７名と各市就農支援協議会など関係機関が出席した。今回の研修会では、地域農業への理解を深めることをねらいに、東濃地域の新規就農者等４名のほ場視察を行った。

各視察先では、就農者から就農までの経緯や経営内容、販売状況などについて説明を受けるとともに、応援隊員との意見交換が行われ、就農して苦労したことや今後の取り組みなどについて質問があった。参加し

た応援隊員からは、各就農者が努力している様子がわかり、今後も応援隊として就農者を支援していきたいとの意見が出された。
　農業普及課では、今後も地域農業の動きや新規就農者の就農状況などについて情報提供を行うなど、就農応援隊の活動を支援していく。

**飛騨農林■担い手　ひだファーマーズミーティング**

【盛り上がったミーティング】

　11 月 14 日に岐阜県青年農業士連絡協議会飛騨支部が主催した「ひだファーマーズミーティング」が開催された。
　「ひだファーマーズミーティング」は研修生や新規就農者等の仲間作りを目的として２年前から開催されており、今回で３回目の開催となる。
　「ひだファーマーズミーティング」では研修生や新規就農者と青年農業士でグループをつくり、率直な話し合いが行われた。新規就農者からは、家族と過ごす時間が増えたこと、また青年農業士からは、就農初年度に体験した気象災害での苦労話などが出され、盛り上がった。参加者からは普段交流する機会のない人とも交流することができ良かったとの声を聞くことができた。
　農業普及課は関係機関と連携しながら担い手の育成を支援していく。

**革新支援センター■若手農業女性　ぎふ農業女性次世代リーダー育成塾開催**

【ＳＷＯＴ分析の発表】

　10 月 30 日および 11 月 15 日に、ぎふ農業女性次世代リーダー育成塾を農業技術センターで開催した。同リーダー塾は平成 28 年度から実施しており、今年度で４年目となる。新規就農者や就農を検討している農業女性７名が参加し、中小企業診断士で社会保険労務士の片桐理恵（かたぎりりえ）講師から、農業経営や労務管理の基礎的な知識を学んだ。
　マーケティングやビジネスプランについてのＳＷＯＴ分析の演習や、各々のライフプランを表計算ソフトを使用して作成するなど幅広い内容であったが、参加者は皆熱心に学習に取り組んでいた。

## 売れるブランドづくり

**西濃農林■冬春トマト　トマト直売所「農業法人スマイルふぁーむ」がオープン！**

【直売所の様子】

　11月４日、トマト直売所「スマイルふぁーむ」が海津市にオープンした。運営するのは近藤康弘さん、福島紳太郎さんと田家一衡さんで、全員が海津トマト部会員でもある。３人は県で最大の冬春トマト産地である海津のトマトを知ってもらい、地元の人にもっと食べてほしいと、今年８月にトマトを販売する合同会社を設立した。
　今回は使用されていない空きハウスを借り受け、直売所開設にこぎつけた。直売所の大きさは作業場を含め約120㎡程度。「ラブリーさくら」「アルル」といったミニトマトやミディトマトを中心に３人が栽培している約10品種を販売する。
　今後は直売所の隣にある500㎡の栽培ハウスを整備し、養液栽培の見学や収穫を体験できる交流の場として開放していく予定である。

**揖斐農林■揖斐郡農業後継者クラブ　「いびがわマラソン」で食の提供**

　11 月 10 日、いびがわマラソン物産展において、毎年恒例のハヤシライス、会員が栽培した野菜の

販売を行った。33 年目になるこの大会は、今年もランナーのエントリーが 10,000 人を超え、メイン会場は早朝から来場者で賑わった。

ハヤシライスは、クラブ員が栽培したトマトがたっぷり入り、甘みと酸味が効いた自信作。長い道のりを走り切ったランナーのお腹と心を満たした。農産物の販売も好評で、試食を交えながらこだわりの野菜を販売し、県内外からの多くの来場者に地元農産物や地域の農業、会の活動をＰＲした。

農業普及課では、出展計画から許可申請、設営まで会員が主体となった取り組みを支援した。これまでの昨年の反省を活かし作り方等、衛生面での強化、効率化等を図った。そ会員達は、これまでの経験と反省を活かしながら消費者に直接販売するノウハウを蓄積しつつある。

**郡上農林■郡上八幡南天生産組合　産地情報交換会を開催**

【生育を確認する市場バイヤー】

郡上八幡南天生産組合は､11 月 15 日に市場関係者を招いて情報交換会を開催した。昨年度まではこの時期に市場訪問を行っていたが、現地の栽培状況をより正確に把握してもらうため、今年度からこの方式に変更した。当日は、沖縄を含む主な出荷先である 7 市場のバイヤーが出席し、ほ場内で熱心に実のつき具合や品質を確認した。

約10haの産地に、多くのバイヤーが集まったことから見ても、郡上という産地がいかに市場から期待されているのか伺われるものとなった。南天は「仏花」として関西市場で引き合いが強く、郡上地域が不作になると代替が利かずそのままプラスチック製のイミテーションに置き換わってしまいかねないことから、伝統を維持するためにも産地の強化が強く求められている。

このような状況により、農業普及課では、経営の多角化を目指す生産者に対し、11～12 月に稼げる経営補完品目として栽培を提案していく。

**恵那農林■クリ　ぽろたん、「大嘗祭」に献上！**

【大嘗祭献上を喜ぶ生産者】

11 月 14 日～15 日にわたって、天皇継承に際する大嘗祭が大嘗宮にて行われた。

大嘗祭では、各都道府県から地域の特産品を机代物として献上され、岐阜県からは、米や粟、干し鮎、富有柿等とともに、東美濃の栗「ぽろたん」が初めて献上品となった。

大嘗祭前には、大嘗祭献上に際して部会役員出席のもと出発式を行い、東美濃ぽろたんが大嘗祭に献上されることをＰＲした。

農業普及課としては、今後もぽろたん部会の活動支援として、研修会等の支援やイベントでの販売・ＰＲの支援を行っていく。

**下呂農林■６次産業化の推進　下呂市女性農業者向け研修会を開催**

【研修会の様子】

農業普及課では、６次産業化に関心のある下呂市内の女性農業者を対象として、10 月 31 日に下呂総合庁舎において「６次産業化チャレンジ研修」を開催した。

当日は、女性農業者をはじめ下呂市、ＪＡひだ、県農業革新支援センター担当者が出席し、６次産業化プランナーが他産業も含めた身近なヒット商品の成功事例を交えながら、６次産業化に対する考え方、必要な手法等を講演した。

講演内容は、具体的な事例を挙げて理解しやすく、楽しみながら聴講できたこともあり、出席した女性農業者からは今後の６次産業化への取り組み意欲の向上が伺えた。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、農業者の６次産業化の取り組みを推進する。